

第59回研修会 奨学生研修会 実施報告

日 時：2011年5月28日（土）～30日（月）
開催地：岐阜県 高山、白川郷
参加者：財団奨学生 29名
（2010年度 15名・2011年度 14名）

日 付	時 間	日 程
5/28 (金)	13:30	ホテル【高山桜庵】ロビー集合
	14:00	
	16:00	飛騨高山グループワーク
	17:30	飛騨高山クイズ大会・交流会（夕食）
5/29 (土)	09:00	ホテル出発 バスで白川郷へ
	10:00	白川郷散策（自由行動）
	12:00	集合 バスでホテルへ ※大雨のため予定を変更し早めにホテルへ戻りました
5/30 (日)	09:00	ホテルチェックアウト・解散



グループワークで飛騨高山の町を散策しました！



交流会でのクイズ大会の商品“高山うちわ”と一緒に☆



白川郷・合掌造りの前で！



展望台で集合写真！

今回の研修会参加者のみなさんには、課題として下記の 2 項目について感想文を書いていただきました。2 名を抜粋してご紹介します。

- ① 研修会の中で一番印象に残ったこと
- ② 飛騨高山・白川郷でみつけた日本文化の魅力

※学生の文章をそのまま掲載しています。

※この課題は「アジア文流 Vol.30」に掲載予定です。(2011 年 10 月発行予定)

2010 年度奨学生
鍾 曉雲(マレーシア)群馬大学

- ① 世界文化遺産が見られるとは思わなかった！幸せだった！友達にほこれる！合掌作り民家園はこんなに欠損なく保存されていることに感動させられた！中野義盛家主屋（加須良）に離村前の写真パネルが展示されているのでそれを見て昔の人々の暮らしぶりを知ることができた。しかし今誰も合掌作り民家に住んでいないことに寂しい思いをした。中野義盛家主屋の中に養蚕に使われた道具も展示されている。蚕棚は冷期の蚕を大量に飼育する時に使用された縄網は蚕糞の除去、熟蚕（糸を吐く蚕）の拾い取りに利用されたなど看板での道具についての説明を見て初めて養蚕に関することに触れた。戦後白川郷は水力発電の開発や都市への人口流出により過疎化が生じ豊かな地方文化が危ぶまれたことであつたが、保存された合掌作り民家に私が昔からの人間の知恵を体感で知り、感動させられた。
- ② 高山陣屋は唯一現存する江戸時代の陣屋である。山下陽朗家主家は白川郷に現存する最も古い民家である。そういうことから、飛騨高山と白川郷には貴重な文化遺産が残っていることが分かる。説明をみないと飛騨高山や白川郷にある建築は何年代のものであるか分からないが体感でこの 2 箇所にある建築やその建築の中に展示されている道具などが歴史のあるものだと感じられていた。高山陣屋は徳川幕府直轄領（天領）の被弾を治めた代官所（後郡代役所）の風景を再現しているように感じていた。昔の役人の仕事内容、部屋の使い方が特に説明の看板で強調されている。飛騨高山と白川郷での見学・観光により日本の方々の文化遺産を守る精神が伝わってきた。素晴らしいことだと思いました！

2011 年度奨学生
BHĀNDARĪ MĀDĀN(ネパール)東北電子専門学校

- ① 共立国際交流奨学財団は私達アジア各国からの留学生が安心して勉強と生活ができるように支えてくれて心より感謝しています。今回、この財団の第 59 回奨学生研修会に参加して、色々な国から留学している学生と色々専門的な勉強をしている学生と一緒に集まって、自分が勉強している科目をどのように努力しているかを聞けて、自分の経験も話せるとても良い機会となりました。また、このように色々な国の人がいる事は、日本で学んでいる事だけではなく、その国の文化と生活の過ごし方について話ができる貴重な経験になりました。この研修会でみんなと出会えて本当に嬉しかったです。
- ② 飛騨高山で感じた日本の文化は、昔からの色々な神社や家などがそのまま残されていて、今までだけでなく、これからもずっと日本の伝統を子孫に伝えていこうとしている事です。白川郷を見てびっくりしたことは、かやぶきの屋根は私の母国ネパールにもありますが、白川郷のように厚い屋根ではありません。ネパールの屋根と比べると 3 倍ぐらい厚いので驚きました。また、昔田植えで使われていた道具が今でも残っていて、文化や伝統をみんなで守っていると感じる事ができるのが白川郷の魅力だと思いました。私もネパールの伝統を保存しておきたいなあとと思いました。